

令和元年度 課題解決型ワークショップ 身体表現×幼児教育

幼児教育において想定される課題

・就学前教育の重要性

・コミュニケーション能力の向上

・個性の埋没

ワークショップ概要

様々な音や動きに触れながら、身体を使って表現することを楽しみます。言葉を 使わずに身体を動かして相手の気持ちを感じる体験をし、表情や仕草などの言葉だ けではない色々なコミュニケーションがあることを自然と理解していきます。

また、決まった正解の表現があるわけではなく、一人一人の感性から生まれる多様な表現を大事にしていきます。園児それぞれが持つ個性を身体を使って引き出していくことで、先生も園児の新たな一面を発見し、関わり方を見直すきっかけにもなります。

講師

新井 英夫氏(体奏家)

対象者

飯山南保育所(年長クラス)

実施日

2019年12月6日(金)(1回実施、1時間/回)







ワークショップ参加者の声

【先生の声】

- いつもは1人が何か違う事をしだすと他の園児も巻き込まれることが多いが、ワークショップの時は集中力が高く、それがなかった。
- 普段はあまり自分から手を挙げない園児が、率先して発言し、 参加していた。
- 普段は言葉で指示するようなことを、目線や仕草で伝えることができていてすごいと思った。

【アーティストの声】

- ・実施した身体表現は、自分勝手に何でもやってよいというわけではなく、一緒にやる相手のことを受け止めた上で、自分を出して表現していくもの。つまりこれがコミュニケーションの基本感覚だと思う。子どもたちは楽しみながらこのことを徐々に理解し、達成していたので感動した。
- ・体の中身の豊かさが、言葉の豊かさの土台。感覚を育てる表現 遊びをすることで言葉の表現も次第に豊かになってくるはず。

【ロジックモデル】

アートを身近に 感じる

中間アウトカム 対象者 初期アウトカム 最終アウトカム 感じたこと、考 生活の中の音や 様々な音や動き 積極性が身につ えたことを動き 豊かな 動きに興味を持 表現力を養う に触れ楽しむ で表現する楽し < 感性を養う さを味わう 先生や友達の動 コミュニケー 自信をもって行 創造性を豊かに きや表情から気 自ら身体を動か 表現が受け入れ ション能力の向 動できるように 持ちを読み取ろ する そうとする られる 上 なる うとする 園児 感じたこと、考 体を動かして楽 多様性を受け入 友だちの表現に えたことを表現 しむ 触れる れる できるようにな 動きや表情を良 く観察する 子どもとの新た 園児とのより良 なコミュニケー アートを活用し い関わり方への ション方法を学 た保育の実践 ヒントになる ιšί 子どもの新たな 先生 一面に気づく 身体表現等の